



● 会長挨拶

会長 小野 徹君



皆さんこんにちは。本日は恒例の「長泉RCとの合同例会」になります。今回は幹事クラブが三島RCということで、一言ご挨拶させていただきます。今朝の静岡新聞で、長泉RCが、ここ米山記念館にAEDを寄付された記事を見ました。ご活躍ぶりに敬意を表します。三島RCでは、反対に、元会員の高林保巨さんが逝去されたという、悲しいニュースが入りました。いつもニコニコして、本当にいい人でしたが残念でした。

長泉RCと三島RCとは、お隣のクラブでありますのに、2018年から、地区割が変わって、三島RCは、第2分区から静岡第1グループに分かれてしまいましたが、当時の鈴木正明会長、堀内満喜子会長の話し合いで、隣(市)町であることの誼を大切に、今まで通り、一年に一回、例会を共にし、親交を温めていこうということになって、ずっと継続しているのは、実にありがたい、意義あることです。

さて、私は、小野建設の会長をしておりますが、私の先代は、戦後、長泉町というか黄瀬川の仕事を請け負っておりました。昭和25年の災害復旧工事では、「台湾坊主」と呼ばれる「春一番」による突然の出水で、当時は虎の子のお宝だった大事な排水ポンプを流されてしまったという苦い経験があり、以来、この季節には、これをずっと教訓にしてきました。また、その昭和25年の6月には、朝鮮戦争が勃発し、結果的に、これが日本経済を蘇らせるキッカケになったわけですが、米軍の要請で「日米行政協定」として、御殿場の米軍キャンプ(米軍が旧日本軍にかわり、演習場を使うようになった)から、沼津の今沢海岸に至る整備工事が、昭和28年から、一遍に多くの工区に分けて発注されました。それが旧246号で、もともとは、細い道があったのですが、戦車を通すための道路整備ということで、私の会社では、下土狩の協和発酵から、駅北の踏切付近までの仕事をしました。また、黄瀬川を渡る「新寿橋」の仕事もさせてもらい、その時の名残で、下流側の道路と歩道の境に、当時の社名の「小野土木」という銘板が、今だに設置されています。車で走っていると、あつという間ですが、ゆっくり走ればわかります。

この「米山記念館」にも、思い出があります。この新館は、平成9年7月に地鎮祭を行ったものですが、この仕事の入札の前に、工事の打診がありました。私は三島ロータリーですが、父が、三島西ロータリーにいて、この新館の建設委員だったんですね。それで、父が、社長の私に、「どうする?」って聞くものですから、「そりゃ、無理じゃないの」という訳で、この仕事の入札には参加せず、結局、富士の石井組が請け負うことになりました。

以上、くどくどと昔話を申し上げましたが、私のように昔話ではなく、今日は、これからの長泉・三島について、当三島RCの会員であり、三島市議会議員で、ウーブンシティなどにも詳しい石井真人君に、「三島RC」を代表して、卓話をお願いしておりますので、どうぞご期待下さい。



クラブ会長指針

(Our)
「Enjoy (Your) Rotary Life」

RI会長 フランチェスコ アレッツォ

UNITE FOR GOOD

● 出席報告

	出席総数	出席率	
今 回	31/43	72.09%	会員総数:44名

<欠席者>

・太田君 ・加藤(頌)君 ・河田君 ・古口君 ・佐藤(良)君
 ・杉村君 ・住本君 ・永田君 ・野口君 ・宮内君 ・山本君
 ・米山君

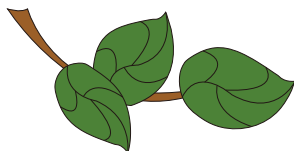
● 幹事報告

幹事 星合義弘君

1. 台風第15号災害静岡県義援金ですが、20,305円の義援金が集まりました。ご協力ありがとうございました。
2. 地区大会参加の申し込み期限は10月10日です。まだ、回答書を提出していない方は期日までに私まで、お願いします。
3. 次回例会は、10月22日、夜間例会です。開会点鐘は18時30分 卓話は 山岡 修一君です。

● ゲスト・ビジター

岡山旭川RCより長泉RCビジター2名様



卓話

石井真人君



米山梅吉記念館にて、三島・長泉の合同例会で講話をさせていただきました。

三島市と長泉町は、生活圏・通勤圏を共有する密接な関係にあり、今後はさらなる広域連携が必要です。令和5年には、三島駅から下土狩駅を結ぶ自動運転の実証実験が行われ、行政分野では消防・ごみ処理の広域化などが進められています。

また、長泉では、AIオンデマンド交通の導入がすでに進められており、今後は三島への展開の可能性もあります。さらに、医療では長泉のがんセンター、教育では三島の学校群といった強みを生かし、移住・定住の促進につなげることが重要です。

今後は、公共施設や行政サービスの相互利用を進めることで、住む場所に縛られず、両市町の魅力を共有できる広域都市圏を形成することができます。三島駅から品川駅までわずか37分という立地を生かし、地域が一体となって新たな可能性を切り開いていくことが期待されます。

